

養豚農家の皆様へ

豚熱の防疫対策をしっかりとお願いします！！



全国の発生状況（2022.1.24 現在）（農水省 HP より）

- ・2018年9月に岐阜県で発生以来、全国で76事例の発生がみられています。（防疫措置対象136農場、5と畜場）
- ・直近では2021年12月に宮城県の農場で2事例の発生がありました。（関連農場で岩手県、山形県などでも防疫措置）

<豚熱の症状>

発熱、食欲不振、元気消失、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害、結膜炎など

重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑（耳翼、尾、腹部、内股部）を呈し死亡します。



耳翼の紫斑



元気消失



結膜炎

写真出典：農水省 HP

ワクチン接種の開始



- ・青森県では2021年（令和3年）7月30日から県内全域で豚熱のワクチン接種が開始されました。同年11月1日までに81農場249,254頭の初回接種が終了しています。（県畜産課 HP より）
- ・県では、引き続き繁殖豚、肥育豚、出生豚について接種プログラムに沿った接種を継続中です。

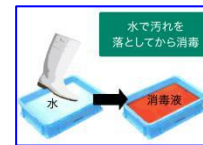
一般社団法人 青森県畜産協会
TEL 017-722-4331

接種農場における飼養衛生管理の重要性

ワクチン接種農場でも免疫を獲得していない豚が存在すること等から、豚熱ウイルスの農場侵入防止のため

- ・ 飼養衛生管理を徹底すること。
- ・ 異状がみられた場合は最寄りの家畜保健衛生所に早期通報すること。が不可欠です。

飼養衛生管理基準の順守徹底



適切なワクチン接種のほか、以下の点を再確認することも大変重要です。

○適切な車両消毒の実施

動力噴霧器等でタイヤに付着した泥等の除去した上で、消毒を実施

○豚舎毎の作業着、手袋、長靴の交換及び交差汚染防止

豚舎毎に手袋・長靴を交換。すのこ等を利用して、交換前後の動線が交差しないように注意

○免疫を獲得していない豚群への対応

ワクチン接種前の離乳豚群は感染リスクが高い。離乳豚舎等について、特に以下の点に注意

- ・ 豚舎に出入りする際の靴の交換および手指の消毒
- ・ 野鳥侵入防止のため、豚舎開口部には防鳥ネットを設置

○消毒液の交換頻度

消毒薬は有機物により効果が減弱するため、定期的に交換

○農場内作業動線及び作業手順

豚が豚舎間を移動する際は、可能な限り消毒済みのケージを利用

○農場職員への教育訓練等

従業員にも定期的な教育や訓練を実施。消毒薬の交換記録簿の作成など、確認手段を設定

○野生イノシシの農場侵入リスクの認識

野生イノシシの侵入防止のため、防護柵を設置

その他の野生動物などを介して感染する可能性もあるので、イノシシの有無に関わらず、周辺環境からのウイルス侵入のリスクが高いことを認識（農水省 HP（拡大豚熱疫学調査チーム検討会資料）等を参考）